

日伯外交関係樹立 125 周年記念切手発行に関する記念イベント（11 月 3 日）  
山田駐ブラジル日本大使挨拶

アラウージョ外相、  
トラッジ上院議員、  
ニシモリ下院議員、  
ペイショット郵便公社総裁、  
皆様、

本日は、日伯外交関係樹立 125 周年に際する記念切手発行に関するイベントにお招きいただき、ありがとうございます。アラウージョ大臣には、3 週連続でお会いすることができ、嬉しく思います。

イペと桜が共に描かれた今回の記念切手は美しく、日伯間の緊密な友好関係を象徴する、素晴らしいデザインであると思います。ブラジル政府にてこの記念切手を発行していただいたことに御礼申し上げます。

1895 年 11 月 5 日に日伯修好通商航海条約が調印され、両国間に外交関係が樹立されました。調印の背景には、日本人移住者へのブラジル側の期待もありました。

その後ブラジルへの日本人の移住が進み、現在ブラジルには約 200 万人の世界最大の日系社会が形成されています。日本人移住者及び日系人は、ブラジル社会の信頼を勝ち得て、ブラジルの発展に大きく貢献してきました。また、今年 30 周年を迎えた、約 20 万人の在日ブラジル人コミュニティも日本経済に貢献してきています。

こうしたブラジルの日系人及び在日ブラジル人という特別な人的な絆が、両国の緊密な友好関係の重要な礎となっています。

外交関係樹立から 125 年を経て、日伯関係は幅広い分野で大きく発展してきました。私自身、約 40 年に及ぶ外交官としてのキャリアの中で、様々な形で日伯関係強化に携わり、その発展を目の当たりにしてきました。セラード農業開発、ウジミナス製鉄、アマゾン・アルミ、セニブラ紙パルプ開発等、様々な大型のナショナル・プロジェクトに日本政府・企業が協力し、ブラジルの経済発展の手助けを行ってきました。日本とブラジルは、共に夢を実現してきたパートナーです。

そして今日日伯両国は、自由、民主主義、人権、法の支配といった基本的価値を共有する、戦略的グローバル・パートナーです。二国間の協力を留まらず、国連安保理改革、WTOでの協力、気候変動等について国際場裏でも緊密に連携しています。

私は常々、「現在の日伯関係は素晴らしく良好だが、様々な分野において発展の余地は大変大きい」と述べています。政治、経済、科学技術、防衛、サイバーセキュリティ、文化・スポーツ交流、学術交流等の幅広い分野において、今後も一層の協力を

進めたいと考えています。

また、現在国際社会は新型コロナウイルス感染症という困難に直面しています。日本はこれまで、JICA、PAHO、UNOPS を通じて、ブラジルにおける感染症拡大予防のため、医療機器・資材の提供や技術協力といった支援を実施してきました。また、新型コロナウイルス対策に関する日本の知見・経験の共有にも取り組んできています。今後も、ブラジルに対する更なる可能な協力を追求していきたいと考えています。

最後に、来年は東京オリンピック・パラリンピックが開催される予定です。「リオから東京へ」バトンを引き継ぐ中、安心・安全な大会を成功させるため、ブラジルの皆様からも引き続き力を貸していただけたら頼もしく思います。そして大会では、日本とブラジルの選手の目覚ましい活躍に大いに期待したいと思います。

本日はありがとうございました。

(了)